



# 祐介の目

大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.65

毎月1日号に掲載

程にチームワークが生まれ、素晴らしい景色を眺めて達成感を共有する。万が一遭難しても非難するのではなく「よく頑張った」と労ってあげたいものだ。

さて、来たる東京オリンピック競技が追加され、競馬場跡地に建設される新しい体育館にもクライミングボード設置が決定した。クライミングには多くの有力な日本人選手が存在し、若い人の間でもクライミングやボルダリングの人気は高まっており、メダル獲得の可能性は高い。他にもスキーを担いで山に登って滑るバックカントリースキー、従来の地味なフアッションを変えた山ガールの登場など、登山のスタイルも様変わりした。

しかし、安全第一という基本姿勢は変わることがなく、山岳会はそのためにあると言っても過言ではない。山に登ってみたい方はぜひ山岳会の門戸を叩いて欲しい。多くのベテラン会員が安全で楽しい登山を指導してくれるだろう。じつは私は4月から福山山岳会の会長に就任予定であり、会員の安全と会のみずますの発展という重責を担うこととなるが、創立百周年を盛大に祝いたいと考えている。

## 山岳会と冬山遭難

冬山遭難事故が発生すると多くのメディアが取り上げ、無事に生還しても関係者がカメラの前で謝罪させられる。私が所属する福山山岳会の創立者はくろがね屋の藤井与一右衛門氏であり、2年後には会創立百周年を迎える。会の長い歴史上、唯一の遭難死亡事故は平成5年冬の大山北壁登攀中に起きた。私の母もチョモランマ登頂後に遭難しているが、十分なトレーニングを積み慎重な計画を立てていても冬山遭難事故をゼロにはできない。

私もこの冬に山岳指導員講習会を受講した。アイゼン歩行やピッケルを使った安全確保など、リーダーとして同行者の安全を守り、楽しい山行にする方策について学んだ。このリーダーとしての心構えや技術は経営者の振る舞いに通じるものがある。風雪の中でテントを張り、苦労して山頂を極める過